

# 参 考 资 料

# 食物アレルギー緊急時対応マニュアル

P.1

## アレルギー症状への対応手順と役割分担

- ・原因食物を食べた
- ・原因食物に触れた
- ・何らかのアレルギー症状がある（初期症状を含む）

よくある訴え 😊  
「気持ち悪い」「のどがかゆい、イガイガする」「お腹が痛い」「息が苦しい」「かゆい」等

### 子どもに異変？

アレルギーの可能性をまず考える

#### 発見者

- リーダー代行（管理職到着後交代）
- 場所の確保
- 人の確保

- 子どもから目を離さない、ひとりにしない
- 助けを呼び、人をあつめる  
ひとりで判断・対応しない
- 可能なら保健室へ移動  
移動は歩かせない（車椅子・担架等を使用）

3人以上の  
教職員で対応

#### 校長・教頭・園長 等

- 現場に到着次第リーダーとなる
- 対応について指示・判断
- 保護者への状況説明

体制図を参考にして、各校毎に校内の担当者および緊急連絡体制を作成する。

#### 連絡役

- 管理者を呼ぶ
- 救急車を要請
- 保護者に連絡
- さらに人を集める
- 救急車到着後の誘導
- 他の子の対応

#### 観察役（発見者）

- 発見者又は養護教諭（養護教諭到着したら交代）
- 症状の観察
- 緊急性の判断
- 子どもに声をかけ続ける
- 処置の必要性を判断

#### 準備役

- 「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」を持ってくる
- エピペン
- 緊急時薬
- AED
- その他の必要物品
- 記録

### 緊急性が高いアレルギー症状はあるか？

緊急性の判断と対応

P.3

ある

#### 緊急性が高いアレルギー症状への対応

P.3

ただちにエピペンを使用  
救急車を要請

P.4

P.5

反応がなく、呼吸がない

心肺蘇生を行う

P.6

医療機関へ搬送

ない

5分毎に症状を観察し、経過と処置を記録

P.2

緊急時記録シートのレベル（赤■・黄■・青■）に従い対応。

緊急性の高い症状の出現に注意する。

# 緊急時記録シート（症状・処置）

◆症状は急激に変化することがあるため、5分ごとに、注意深く症状を観察し、記録する。

年 組 氏名： \_\_\_\_\_

記録時刻： \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分 記録者氏名（ \_\_\_\_\_ ）

誤食した時間	令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 時 _____ 分
食べたもの・食べた量	※二重線内は1回目のチェック時のみ記入
処置	<input type="checkbox"/> 口の中のものを取り除く <input type="checkbox"/> うがいをする <input type="checkbox"/> 手を洗う <input type="checkbox"/> 薬の内服・吸入（内容 _____ ）（有・無） _____ 時 _____ 分 <input type="checkbox"/> エピペンの使用（有・無） _____ 時 _____ 分
備考	

← 緊急症状が出た時刻： \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分頃

全身の症状	<input type="checkbox"/> ぐったり <input type="checkbox"/> 意識もうろう <input type="checkbox"/> 尿や便をもらす <input type="checkbox"/> 脈がふれにくいまたは不規則 <input type="checkbox"/> 唇や爪が青白い		
呼吸器の症状	<input type="checkbox"/> のどや胸が締め付けられる <input type="checkbox"/> 声がかすれる <input type="checkbox"/> 犬が吠えるような咳 <input type="checkbox"/> 息がしにくい <input type="checkbox"/> 持続する強い咳き込み <input type="checkbox"/> ゼーゼーする呼吸	<input type="checkbox"/> 数回の軽い咳	
消化器の症状	<input type="checkbox"/> 持続する強い（がまんできない）お腹の痛み <input type="checkbox"/> 繰り返し吐き続ける	<input type="checkbox"/> 中等度のお腹の痛み <input type="checkbox"/> 1~2回のおう吐 <input type="checkbox"/> 1~2回の下痢	<input type="checkbox"/> 軽いお腹の痛み（がまんできる） <input type="checkbox"/> 吐き気
目・口・鼻・顔面の症状		<input type="checkbox"/> 顔全体の腫れ <input type="checkbox"/> まぶたの腫れ	<input type="checkbox"/> 目のかゆみ、充血 <input type="checkbox"/> 口の中の違和感、唇の腫れ <input type="checkbox"/> くしゃみ、鼻水、鼻づまり
皮膚の症状	<b>上記の症状が1つでもあてはまる場合</b>	<input type="checkbox"/> 強いかゆみ <input type="checkbox"/> 全身に広がるじんましん <input type="checkbox"/> 全身が真っ赤	<input type="checkbox"/> 軽度のかゆみ <input type="checkbox"/> 数個のじんましん <input type="checkbox"/> 部分的な赤み
		1つでもあてはまる場合	1つでもあてはまる場合

① ただちにエピペンを使用  
 ② 救急車要請  
 ③ その場で安静を保つ  
 ④ その場で救急隊を待つ  
 ◆必要に応じて蘇生術を行う

**ただちに救急車で医療機関へ搬送**

① 主治医、校医（園医）に連絡して指示を受ける  
 ② 緊急時薬があれば内服もしくは吸入  
 ③ エピペン準備  
 ④ 医療機関受診（救急車の要請も考慮）

**速やかに医療機関を受診**

① 安静にして経過観察  
 ② 必要に応じて主治医、校医（園医）に連絡して指示を受ける  
 ③ 緊急時薬があれば内服もしくは吸入  
 ④ 保護者に連絡

**安静にし、注意深く経過観察**

◆アレルギー症状があったら5分以内に判断する！

◆迷ったらエピペンを打つ！ただちに119番通報をする！

### 緊急性が高いアレルギー症状

#### 【全身の症状】

- ぐったり
- 意識もうろう
- 尿や便を漏らす
- 脈が触れにくいまたは不規則
- 唇や爪が青白い

#### 【呼吸器の症状】

- のどや胸が締め付けられる
- 声がかすれる
- 犬が吠えるような咳
- 息がしにくい
- 持続する強い咳き込み
- ゼーゼーする呼吸  
(ぜん息発作と区別できない場合を含む)

#### 【消化器の症状】

- 持続する強い（がまんできない）お腹の痛み
- 繰り返し吐き続ける



### 1つでもあてはまる場合

- ① エピペンを使用する
- ② 救急車を要請する（119番通報）
- ③ その場で安静にする（下記の体位を参照）  
立たせたり、歩かせたりしない！
- ④ その場で救急隊を待つ

◆エピペンを使用し10～15分後に症状の改善が見られない場合は、次のエピペンを使用する（2本以上ある場合）

◆反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生を行う。

### 安静を保つ体位

ぐったり、意識もうろうの場合



血圧が低下している可能性があるため仰向けで足を15～30cm高くする

吐き気、おう吐がある場合



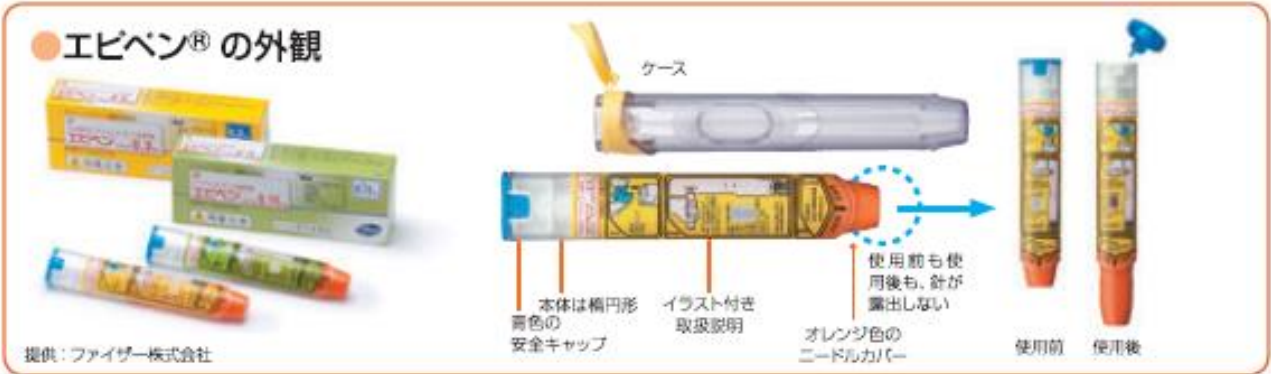
おう吐物による窒息を防ぐため、体と顔を横に向ける

呼吸が苦しく仰向けになれない場合



呼吸を楽にするため、上半身を起こし後ろに寄りかからせる

## ◆それぞれの動作を声に出し、確認しながら行う



## ● エピペン® の使い方

いざという時に正しくエピペン®を使用するためには、日頃からの練習が不可欠です。

図のように、足の付け根と膝の両方の関節を押さえることで、しっかり固定できるだけでなく、押さえいる手を目印に正しい部位に投与することができる。

**トレーナーではなく本物であることを確認する**

<本物>      <トレーナー>

ラベル、ニードルカバーの違いを確認しましょう

## ◆それぞれの動作を声に出し、確認しながら行う

① **ケースから取り出す**

ケースのカバーキャップを開け、エピペン®を取り出す

**介助者がいる場合**

介助者は、子どもの太ももの付け根と膝をしっかり押さえ、動かないように固定する

**投与部位になにもないことを確認する**

投与部位に重なってしまうポケットの中を確認しましょう

② **しっかり握る**

オレンジ色のニードルカバーを下に向け、利き手で持つ  
"グー"で握る！

**注射する部位**

- ・衣類の上から、打つことができる
- ・太ももの外側の筋肉に注射する（真ん中 (A) よりも外側で、かつ太ももの付け根と膝の間の部分）

**投与する前には、必ず子どもに声をかける**

③ **安全キャップを外す**

青い安全キャップを外す

**あおむけの場合**

**エピペン®は振り下ろさない**

振り下ろしている瞬間に子どもが動いてしまい正しく打てないおそれがあるので、軽く押しあてた状態から、押しつけましょう

④ **太ももに注射する**

太ももの外側に、エピペン®の先端(オレンジ色の部分)を軽くあて、「カチッ」と音がするまで強く押しあてそのまま5つ数える  
注射した後すぐに抜かない！押しつけたまま5つ数える！

**座位の場合**

投与した薬剤が速やかに吸収され速く効果が現れるようにするために、投与部位をもみます。

⑤ **確認する**

使用前      使用后  
エピペン®を太ももから離しオレンジ色のニードルカバーが伸びているか確認する  
伸びていない場合は「④に戻る」

⑥ **マッサージする**

打った部位を10秒間、マッサージする

## ◆あわてず、ゆっくり、正確に情報を伝える

119番、  
火事ですか？  
救急ですか？



救急です。



- ① アナフィラキシーで救急要請であることを伝える。

住所はどこですか？



伊予市〇〇  
〇丁目〇番  
(学校名)です。



- ② 救急車に来てほしい住所を伝える

住所、施設名をあらかじめ記載しておく

どうしましたか？



〇歳の生徒が  
給食を食べた後、  
呼吸が苦しいと  
言っています。



- ③ 「いつ、だれが、どうして、現在どのような状態なのか」をわかる範囲で伝える

エピペンの処方やエピペンの使用の有無を伝える

あなたの名前と連絡先を教えてください。



私の名前は  
〇〇です。  
電話番号は  
□□です。



- ④ 通報している人の氏名と連絡先を伝える

119番通報後も連絡可能な電話番号を伝える

- ⑤ 救急隊が到着するまでの応急手当の方法を聞く

※向かっている救急隊から、その後の状態確認等のため電話がかかってくる  
ことがある

通報時に伝えた連絡先の電話は、常につながるようにしておく

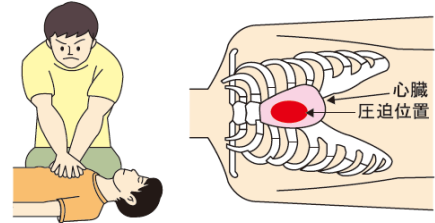
◆強く、速く、絶え間ない胸骨圧迫を！

◆救急隊に引き継ぐまで、または、子供に普段通りの呼吸や目的のある仕草が認められるまで心肺蘇生を続ける

### ① 反応の確認

肩を叩いて大声で呼びかける  
乳幼児では足の裏を叩いて呼びかける

#### 【胸骨圧迫のポイント】



- 胸の真ん中を両手で圧迫
- 強く（胸の厚さの約1/3）
- 速く（少なくとも100回/分）
- 絶え間なく（中断は最小限にする）

反応がない

### ② 通報

119番通報とAEDの手配を頼む

### ③ 呼吸の確認

10秒以内に胸とお腹の動きを見る



#### 【人工呼吸のポイント】

- 息を吹き込む際
- 約1秒かけて
- 胸の上がりが見える程度

普段通りの呼吸をしていない

※普段通りの呼吸をしている  
ようなら、観察を続けながら救  
急隊の到着を待つ



#### 【AED装着のポイント】

- 電極パッドを貼り付ける時も、  
できるだけ胸骨圧迫を継続する
- 電極パッドを貼る位置が汗など  
で濡れていたらタオル等でふき  
取る
- 6歳くらいまでは小児用電極  
パッドを貼る。なければ成人用  
電極パッドで代用する

### ④ 必ず胸骨圧迫！可能なら人工呼吸

**30 : 2**

ただちに胸骨圧迫を開始する  
人工呼吸の準備ができ次第、可能なら人工呼吸を行う

### ⑤ AEDのメッセージに従う

電源ボタンを押す  
パッドを貼り、AEDの自動解析に従う



#### 【心電図解析のポイント】

- 心電図解析中は、子供  
に触れないように周囲  
に声をかける



#### 【ショックのポイント】

- 誰も子供に触れていない  
ことを確認したら、点滅  
しているショックボタン  
を押す

本マニュアルは、伊予市教育委員会「学校給食における食物アレルギー対応マニュアル」（令和3年 月作成）を補完するものです。ご不明な点については、伊予市学校給食センター（089）989-5257までお問い合わせください。